

がん化学療法レジメン登録票

レジメン名	VRd 4週
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永孝生
適応がん種	多発性骨髄腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	MM-14
登録日・更新日	2017年8月22日
削除日	
出典	Haematologica. 2016 101.149-152. Blood 2011 118:2949 レプラミドカプセル添付文書 ベルケイド注射用添付文書
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

1サイクル目		投与量算出式		ルート		投与時間	施行日
No.1	ベルケイド注射用	3mg	1.3mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート	<input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(皮下注)		day1、8、15、22
No.2	レプラミドカプセル	5mg	25mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート	<input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服)	1回/日	day1-21
No.3	レナデックス錠	4mg	40mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート	<input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服)	1回/日	day1、8、15、22

1コースの期間	28日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能() ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準

【開始基準】
 ・好中球数 $\geq 1,000/mm^3$ 、血小板数 $\geq 50,000/mm^3$ 、非血液毒性：ベースライン又はGrade1以下に回復

【休薬・減量・中止基準】
 休薬・減量・中止基準はIRdレジメンに準拠する。

副作用	程度	処置
血小板減少症	血小板数 $30,000/mm^3$ 未満	30,000 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び30,000 mm^3 未満に減少した場合は、30,000 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
好中球減少症	好中球数 $500/mm^3$ 未満	500 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び500 mm^3 未満に減少した場合は、500 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
皮膚障害	Grade 2	対症療法を行い、投与を継続できる。 忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。
	Grade 3	回復後、1段階減量して投与を再開できる。
	Grade 4	投与を中止する。
末梢神経障害	疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2	ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。
	疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
	Grade 4	投与を中止する。
上記以外の副作用	Grade 3の非血液毒性	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。
	Grade 4の非血液毒性	投与を中止する。

Grade は NCI-CTCAE v4.0 に基づく

◆ベルケイドの減量目安
 開始用量：1.3mg/m²
 ステップ1(1段階減量)：1.0mg/m²
 ステップ2(2段階減量)：0.7mg/m²
 ステップ3：投与中止

◆レナリドミドの用量調節の目安
 - 25 mg
 1段階目 15 mg
 2段階目 10 mg
 3段階目 5 mg
 4段階目 中止

◆デキサメタゾンの用量調節の目安
 - 40mg
 1段階目 20mg
 2段階目 12mg
 3段階目 8mg
 4段階目 中止

前投薬

その他の注意事項

・レナリドミド投与期間中は、深部静脈血栓症予防のアスピリン、抗凝固薬等を投与する。
 ・带状疱疹の予防として、アシクロビル又はバラシクロビルおよび抗生剤(ST合剤等)を投与してもよい。
 ・自家造血幹細胞移植を考慮する症例の場合は通常2コース以内とする。
 ・主として高齢・虚弱な症例あるいは維持療法として使用する。

記入者	伊勢崎竜也
確認者	竹内 正美